

- 実施主体 NPO 法人 ASO 田園空間博物館
- 実施場所 阿蘇市町古閑牧野、阿蘇市下荻の草牧野
- 実施期間 平成 31 年 4 月 1 日～令和 2 年 3 月 31 日



<背景・ねらい>

世界農業遺産の核となる「阿蘇の草原」。これを現在注目されている観光、特にインバウンド観光と結び付け世界に草原の魅力を知ってもらうとともに、ビジネス化することで草原の維持管理に寄与する。

■実施概要

- ・道の駅阿蘇を核として、二つの牧野組合（町古閑牧野組合、下荻の草牧野組合）、地域の観光業者、ボランティア有志らで組織する「牧野ガイド」を組織化。ガイドが率いる団体のみが牧野に立ち入ることができるという規約を設け、一般の方にトレイルウォークやサイクリングを楽しんでもらう仕組み作りを行った。
- ・具体的には、牧野利用規定に応じた牧野ガイドを行い、普段絶対に立ち入る事ができない阿蘇の牧野（草原）の魅力を実地の方々に紹介している。
- ・牧野を利用するには、1人当たり、1,000円の牧野使用料が必要であり、この牧野使用料は、牧野の維持管理等に利用される。
- ・海外の方にも世界農業遺産や世界ジオパークに認定されている阿蘇の草原を体感していただける場として、インバウンドも迎え入れる体制を整えていきたい。最終的には草原とガイド、農泊を絡めて経済効果を出し、他牧野にもこの取組を広げていきたい。



牧野ガイドの案内による
トレイルウォークの様子

■実施体制

- ・今年度、認定したガイド 51 名（町古閑牧野組合、ジオガイド、市内外のサイクルショップ）と連携を図りながら実施している。

■成 果

- ・2018年の12月より事業を実施し、現在、牧野ガイドの人数は、51名と年々増加している。
- ・319名の方に牧野ガイドに参加していただき、その内、65名が海外からの参加者となっている。結果、日本の方はもちろん、海外の方にも阿蘇の草原の魅力や草原についての歴史、文化を紹介できてきていると考える。
- ・町古閑牧野、下荻の草牧野に加え、西小園牧野を新たな活用牧野として実証実験を行っている。

■実施者の感想

- ・牧野ガイド事業を通じて、阿蘇の草原（牧野）と観光の結びつきが、構築されつつあると実感している。特に、ビジネスとして牧野ガイド中心に阿蘇の草原を阿蘇内外や海外の方に紹介、伝えていくことはもちろんであるが、草原を維持していく、守り伝えていく点でも成果が見え始めていると感じている。それが、牧野ガイド自身の牧野整備の実施、野焼きボランティア参加といった自主的活動に繋がっていると考える。
- ・1,000円の牧野保全料を牧野に還元することで、牧野組合が今までできなかった牧野の保全も少しずつできるようになってきている。
- ・この事業を通じて、阿蘇の草原と観光の結びつきを深め、今まで以上に草原の大切さ、維持管理といった点を牧野ガイド、牧野組合、観光業者と共に考えていき、実施していきたい。